

第2回 協働のまちづくり推進委員会 結果概要

1. 開催日時・場所

平成26年4月24日（木）18時30分から20時30分
市庁別館2階 会議室B

2. 出席者（敬称略）

委員：北向秀幸委員長、浮木隆副委員長、佐藤博幸委員、五戸保夫委員、
齊藤綾美委員、田頭順子委員、西島拓委員
事務局：市民連携推進課（4名）

3. 会議概要

■平成25年度事業の評価について

- ・平成25年度に実施された市民奨励金制度にかかる事業7件及び市民提案制度にかかる事業1件の評価について、意見交換を実施。

■平成26年度市民奨励金提案事業の再審査について

- ・平成26年4月19日に開催された「元気な八戸づくり」市民奨励金 公開ヒアリング審査会における審査の結果、奨励金の交付額が希望する奨励金額に満たなかった事業について、再提出された企画提案書等に基づき再審査を実施し、全委員より承認が得られた。

企画提案者：八戸地域神事流鏝馬再興会

事業の名称：八戸藩開藩350周年記念・加賀美流神事流鏝馬再現事業

4. 今後のスケジュールについて

■今後のスケジュール（予定）

- ・5月24日（土）平成25年度実施事業 協働のまちづくり「活動成果発表会」開催
- ・7月9日（水）平成26年度「元気な八戸づくり」市民奨励金（災害に強い地域づくり応援コース）交付対象事業の審査

第2回 八戸市協働のまちづくり推進委員会 議事録

日 時 平成26年4月24日(木) 18時30分から20時30分
場 所 市庁別館2階 会議室B

次第1. 開 会

次第2. 委員長あいさつ

次第3. 平成25年度事業の評価について(市民奨励金制度7件、市民提案制度1件)

- ・平成25年度事業に対する各委員の評価内容をまとめた資料に基づき、事務局より評価ポイントを絞って説明。
- ・市民奨励金制度にかかる事業(7件)と市民提案制度にかかる事業(1件)の評価について、意見交換を実施。
- ・総評案は委員の意見を元に事務局でとりまとめ、後日委員へ確認することとした。

□初動期支援コース①

美保野小学校地域学校連携協議会 / 美保野・金吹沢地区里山づくり

■事務局

- ・評価される点として、地域住民の賛同者・参加者が増えただけではなく、周辺の施設団体や鷗盟大学の人たちも巻き込んでのネットワークづくりが着実に行われて、交流が深められているというネットワークの構築・拡大に関する意見が多くあげられたほか、活動の計画的な進行管理、地域社会への貢献性に関する意見があげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、ホームページ等による情報発信や整備した里山を広く市民に開放してほしいという今後の活動に対する期待が主な意見であった。

■委員

- ・このような事業は1~2年の短い期間で考えるのではなくて、5年、10年の長い期間で考えることが重要だと思っています。事業を継続しつつ、拡大していくということは大変だろうなと思いつつも、頑張してほしいという気持ちです。市民の皆さんが里山に集まって、楽しむというところにはまだまだ達しないだろうとは思いますが、ぜひそのような里山を目指してほしいと考えています。

■委員

- ・中学校の校舎を『ふるさと学習館』に活用するとありますが、学校の理解がないとなかなか進まないものだと思います。ですから、今回の総評の中に「ふるさと学習館が今後整備されることを期待します。」という委員会としての意見を付してあげると、地域も学校との話し合いがしやすいかなと考えています。

■委員長

- ・「美保野・金吹沢地区里山づくり」については、初動期支援コースの2年に続いて、今年も市民奨励金（まちづくり支援コース）に提案がありましたが、継続して取り組まれている事業ということで、非常に評価が高い事業であるということはいえると思います。ですから、委員会の中でもいい実例として捉えられているというお話はしていただいてもかまわないかと思います。

■委員

- ・〇〇委員に伺いたいのですが、学校を貸すということはやはり難しいものですね。校長先生の考え方もあるでしょうし。

■委員

- ・教育委員会との協議を行って、了解・内諾を得ていなければ難しいでしょうね。その際には校長先生の考え方というのが一番大事になってくるかと思います。

■委員

- ・管理している校長先生に事業に対する認識・理解がないと、事業が前に進まないということになってしまいますので、委員会として事業をバックアップするという意味で、総評に「ふるさと学習館が今後整備されることを期待します。」という意見を付すと、学校や教育委員会と協議しやすくなるのかなと思います。

■委員長

- ・私も同意見です。中学校の校舎を使うということは、学校や教育委員会と調整しなかなかなか実現しないというお話でしたので、委員会としても「非常に高評価の事業です」という意見は総評の中に入れてたいと思います。
- ・美保野小学校地域学校連携協議会の事業は里山づくりということで、地域に何があるかということを見つけた上で、見つけた資源をどのように活かすか、地域の皆さんへどのように発信していくかという事例になっているので、非常にいい事業内容だと思っています。

□初動期支援コース②

はちのへおもちゃ病院 / よみがえるおもちゃ！そしてみんなの笑顔プロジェクト

■事務局

- ・評価される点として、当初の計画どおり月1回ペースで継続的におもちゃ病院を開設しており、修理件数やドクター養成講座の受講者数からもかなりの反響があったという活動の計画的な進行管理に関する意見と、事業目的である「物が治る喜びと物を大切に作る心の育成」という事業の有効性に関する意見が多くあげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、物を大切に作る姿勢が育まれていくなどの今後の活動に対する期待のほか、修理とは別な新たな取組も検討してはどうかという今後の活動に対するアドバイスがあげられた。
- ・そのほか、ドクター養成講座により恒常的に活動するボランティアの拡充状況や治らないおもちゃがあった際の依頼者への声がけの様子を知りたいという質問事項があげられた。

■委員長

- ・資料に質問事項が2つ記載されていますので、こちらに関しては活動成果発表会のときにご回答いただけるようにしていただければと思います。

- ・おもちゃ病院の事業については、基本的に継続していかれることになるのですかね。
- ・事業の収支決算書を見ますと、講師の謝金といったおもちゃドクター養成講座に関する経費が大部分になっていますので、おもちゃドクターが育ったら、今後も継続していこうという考え方で取り組んでいくことになるのでしょうかね。

■事務局

- ・今年度も初動期支援コースに事業の提案をされるのかなと思ひまして、先方に確認したところ、おもちゃ病院の財政面が奨励金に頼らなくても大丈夫な自立した状態になったので今回は事業の提案をしません、今後も活動を続けていくというお話がありました。

■委員長

- ・今回、おもちゃドクターとして参加して下さったメンバーが、次からは自分たちでできますよという動きになっているのであればいいのでしょうかね。

■委員

- ・事業をもっと拡大していこうという感触はありましたか。

■事務局

- ・実績報告に際して、おもちゃ病院からは今後の事業展開ということについて聞き取りをしていませんでしたので、活動成果発表会の中で触れていただくようお願いしたいと思います。

■委員

- ・おもちゃの修理に取り組んでいるのだということが広まって行って、ボランティアとしてのおもちゃドクターも増えて行って、他市との交流も盛んになると、だんだん事業のスケールが大きくなっていくような気がするのですけどね。

■事務局

- ・日本おもちゃ病院協会という全国的な組織はすでにあります。
- ・青森県内では、一番初めに弘前市で『弘前おもちゃ病院』が開設されています。以降は青森市、八戸市と開設され、今年三沢市でもおもちゃ病院が開設されました。この3年ほどのうちに各都市で開設されておりますので、青森県内に活動を広めていきたいのだと思います。

■委員

- ・毎月のようにおもちゃ病院を開設しているわけですが、活動が広く周知されると要望も増えていくような気がします。開設の頻度を増やすといった今後の事業の規模について、どのように考えているのかなと思ひました。

■委員

- ・おもちゃ病院は『はっち』の共同スタジオで活動されていますが、施設の使用料はかかるのですか。

■事務局

- ・施設の使用料はかかります。

■委員

- ・地区公民館の方が使用料は安いかもしれませんね。壊れたおもちゃを持ち込む、人が集まりやすいという点では『はっち』のように中心街の施設がいいのでしょうか。

■委員長

- ・はちのへおもちゃ病院に関しては、活動成果発表会の際に今後の活動についてお聞かせ願えればいいですね。

□ 初動期支援コース③

ぷれジョブ八戸 / ぷれジョブ（障がいのある子どものお仕事体験活動）の実施

■事務局

- ・評価される点として、ぷれジョブに対する地域の理解促進、サポーターやボランティアをとおしての障がいに関する市民へのPRといった普及啓発に関する意見と、サポーターの人数が増えているといった継続性に関する意見が多くあげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、参加者を増やすためには活動を広く呼びかけていくことが必要という今後の活動や普及・啓発に対する課題のほか、今後の活動に対する期待が主な意見であった。

■委員

- ・初動期支援コースの団体については、前に進む速度、事業のスピード感が全然違うので、こつこつと積み重ねていくしかありませんね。

■委員長

- ・今回、ぷれジョブを実施した子どもたちが3人ということでしたが、団体がまだ小さいというところもありますので、人数に関しては3人でも十分だと思っています。質問になるかもしれませんが、3人の方に参加していただくことになったきっかけがどのようなものであったかを活動成果発表会の中でお聞きしたいと思います。
- ・また、活動の趣旨を理解していただけている市民の皆さんの範囲が小さいところがあるとは思いますが、先ほどの〇〇委員のお話にあったように3人でも、5人でも着実に取り組まれていったほうが良いとは思っています。

■委員

- ・ぷれジョブ八戸に関しては、すごく気になっていた活動団体でした。障がいを持った子どもさんに職場体験をさせる狙いがよくわからなかったんですね。今回、参加した子どもたちが3人ですし、報告書からは受け入れる事業者も増えているかはわかりませんが、増えているとは思えませんでしたので、何のための職場体験なのかというところが不明確だと思っていました。
- ・最近、新聞で障がい者の方の職場体験を受け入れている会社の社長さんの体験談を読む機会がありました。受け入れを依頼してきた学校の先生から「子どもたちが学校を卒業したあとは施設に入ってしまう、生涯職場を体験する機会がないかもしれない。だから仕事がどんなものかということを経験させてあげたい。」という話を聞いたことが、障がい者の方の職場体験を受け入れることになったきっかけで、その後も働いてもらっているという社長さんのコメントが紹介されていました。これまで、障がいを持った子どもさんに職場体験をさせる狙いがよくわかりませんでした。この記事を見て、ぷれジョブ八戸が子どもたちに職場体験をさせる理由が、自分なりに解消できたかなと思います。
- ・職場体験を受け入れてくれる事業者を増やすためには、新聞に掲載されていたようなアプローチをすればいいのではないかなと思います。活動成果発表会のときに助言してあげられれば良いかなと考えていました。

■委員長

- ・そのあたりも、当日の発表を聞いて質問等していただければいいかなと思います。発表を聞くと、具体的な質問がまた出てくると思いますので。

■委員

- ・今年度ぷれジョブを実施した子どもたちが3人ということでしたが、活動の対象者の年

年齢について20歳までを対象としているのか、小学校・中学校くらいを対象としているのか、どのくらいの幅で考えているのかということがわかりませんでした。

■委員

- ・選考のときに出た話題の確認でしたが、ふれジョブ八戸は障がい者を子どもに持つ父兄が会員となっている団体でしたか。

■委員長

- ・基本的には、そのような構成だったと思います。

■委員

- ・ご家族が会員になっているということで、その中の3人が今回ふれジョブを実施した3人ということになるのか、その点がわかりませんでした。残りの2人については会費を払っていても対象にならなかったのか、来年は対象になるのかということが、疑問としてありました。また、このままの構成員で活動していくのであれば、5人だけを対象にしようとしているのか、違う人も対象にしようとしているのかということもどのように考えているのかなと思いました。

■委員長

- ・今は障がい者の他団体との連携は全くなく、単独で活動しているイメージがあるのですが、今後どのようにされていくのかは気になりますね。その点については、今後の構想ということでお聞かせいただければいいのかなと思います。
- ・初動期なので、大きな構想をお話いただいてもかまわないかと思います。その中で協力できることがあれば、協力していくことができるかもしれませんし。

■委員

- ・高校生の場合は大学に進学する場合もあるし、就職する場合もあるということで、社会との接点が強くあります。そのような中で、高校生の場合は職場体験学習というものもあります。
- ・同じような取組として、中学校でも職場体験『グッジョブ』を市内で実施していて、保護者たちが地域の事業者さんをお願いして子どもたちを受け入れてもらうということをしています。職場体験では、社会との接点を子どもたちが見つけていく、つくっていくという経験をして大変成果を挙げています。ただ、事業者さんには負担をかける面もあるので3日間などの期間となっています。
- ・『グッジョブ』は子どもたちが希望する職場に行って勉強するということになっていますが、八戸第一養護学校や第二養護学校、盲学校、聾学校のように障がい者がいる学校の場合は、体験できる仕事が固定化する傾向にあります。ですから、保護者たちが自分たちで違う接点をつくりたいという強い気持ちが、ふれジョブの活動につながっているような気がしていますので、私は応援したいという気持ちです。学校とは違う関係で社会との接点を見つけない、つくりたい、経験させたいという思いが前面に出ていると思います。

■委員

- ・施設や学校で職場体験を実施していても、障がいのある子どもたちを受け入れてくれるサポーター企業というのは少ないでしょうし、ふれジョブはいい取組なんですけど、受け入れ先を探すということに関しては厳しい面も多いのだろうなと思います。

■委員

- ・ふれジョブ八戸が子どもたちに職場体験をさせる意味のひとつとして、障がいに対する理解を地域から得たいと考えていますよね。しかし、保護者の皆さん全員がそのような考え方ではなく、中には障がいを知られたくないという方もいらっしゃるようです。そ

の辺が障壁となって、申込者が少ないということなのかもしれませんよね。

■委員

- ・ぷれジョブ自体は本当にいい取組だと思います。保護者の方からすると学校に行っている間は安心ですが、卒業したあとの就労先というのは受入先も限られ、皆さん本当に困っているようです。ぷれジョブは現実味のある取組だと思うので、多くの事業所で受け入れてあげられれば良いとは思いますが、その段階まで行くのはハードルが高いなと思っていました。

□まちづくり支援コース①

豊崎地域づくり実行委員会 / 第3回八戸市小学生駅伝豊崎大会

■事務局

- ・評価される点として、地域住民の新たなつながりができ、当初の事業の期待される効果が達成されているという事業が及ぼした効果に対する意見や、事業の継続性、自立性に関する意見があげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、日程調整や周知方法の見直しによる参加校を増やす工夫が必要という今後の活動に関するアドバイスが多くあげられたほか、新たな事業展開を検討してはどうかという意見があげられた。

■委員長

- ・豊崎地域づくり実行委員会については、駅伝大会を開催するための団体ではありません。駅伝大会は、実行委員会が次のステップに進むための一つの事業として今回実施しているということになります。まちづくり支援コースについては、初動期支援コースとは違って、事業を実施することで団体が今後どのようなようになっていくかという部分の発表がないと少し足りなくなってしまう。
- ・駅伝大会はあくまで手段ですので、駅伝大会を開催して、団体の次のステップにどのようなつながるかというところ。資料の意見とアドバイスの欄の『事業の発展・新たな展開について』で、「駅伝大会のほかに何かできないか」という意見が出されていますが、今後の方向性についても活動成果発表会のお話いただければと思います。駅伝大会の開催が、団体にとってどんな意味があったかというところ。その辺を発表に盛り込んでいただけると、まちづくり支援コースで市民奨励金を交付した意味が出てくるというふうに思います。

■委員

- ・この団体に関しては、委員長が今おっしゃられた部分になるかと思います。駅伝大会は一つの手段に過ぎないので、駅伝大会にこだわる必要はなくて、地域の持つ力を結集して一つの事業をやり遂げたというところで、この力を次にどんなところに活かすかということを考えてもいいと思います。別な事業を実施してもいいかもしれないですね。

■委員長

- ・駅伝大会の反省会の資料が添付されていて、大会の運営に関する話が大部分になっているのですが、地域づくりの実行委員会として次にどのようなステップに進んでいかれるかということがいただきたい報告になります。経験知としては大事なのですが、団体として今後どうされるかということが発表の中で触れられなければ、質問として出すつもりです。全然マイナスの評価はしていないのですが、今後の方向性に関するお話も入れ

ていただきたいというところになります。

■委員

- ・最初に駅伝大会を提案されたときは、豊崎を紹介したいということだったと記憶しています。コースを案内しながら、まちも案内するというところから始まったと思うのですが、いつのまにか駅伝大会に特化してしまったという感じがします。駅伝大会を開催することで、他の地域から小学生が来る、保護者も来るということであれば、駅伝大会の開催というアプローチは間違いではないと思いますので、駅伝大会を今後も続けるとした場合、駅伝をとおして何をしたいかというビジョンをお持ちであれば、それでもいいのかなという気はします。
- ・また、資料に記載のとおり、皆さんおっしゃっているのですが、参加校が少なくなっています。今回1校から4チーム出場しているという状況では、みんなに豊崎を紹介したいという部分では弱くなっていると思いますので、そのような部分をどうするかということを考えてもらいたいと思います。

■委員長

- ・駅伝という手段で地域づくりを進めていかれるのであれば、当初の事業の目的自体を考えた場合、参加校が増えないと縮小してしまっているということになりますね。

■委員

- ・資料に記載されていることとほとんど同じことになりますが、事業の効果のところ「絆が深まった」とか「協同の和が広まった」とありますが、すごく抽象的な表現で終わっています。具体的にサークルが立ち上がったとか、そのようなエピソードがあれば尚いいかなと思います。

■委員長

- ・駅伝大会そのものよりも、ネットワークづくりでもいいわけですが、具体的なエピソードも発表の際には入れていただいた方が、市民奨励金本来の目的の答えに、事業効果の答えになってくるかなと思いますので、お願いしたいと思います。

□まちづくり支援コース②

鮫観光協会 / 三陸復興国立公園指定記念ウェルカムフェスティバル in 鮫

■事務局

- ・評価される点としては、地域が一丸となって国立公園に指定されたことを祝い、PRしているという取組内容に関する意見のほか、地域住民にとっておもてなしの仕方の学びになったという地域社会への貢献性に関する意見が多くあげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、主要な参加者の反省点や意見を集約できると良かったという事業運営に対する意見があげられた。
- ・そのほか、新規ボランティアの開拓状況やイベントで改善を要する事項に関する質問事項があげられた。また、事業実施までのプロセス、事業実施による波及効果をうかがいたいという意見があげられた。

■委員長

- ・質問事項にあるように事業の成果や自己評価に記載されている内容を具体的にお話いただければなと思っています。今の事業報告書だと、イベントを実施したということしか読み取ることができません。他の事業も同時進行でされていたようですので、かなり大

変だったことと思いますけれども、恐らくいろいろあったと思いますので、発表の際には具体的なエピソードを入れていただければと思います。

■委員

- ・イベントをして、鮫観光協会がどう育ったのかということが全くわからないので、問題を話し合いで改善したとか、課題が出たということをお教えしてほしいと思います。

■委員

- ・この事業は、事業終了後の提案書提出でしたよね。事業が終わってからの提案なので、事業計画のままというイメージにどうしてもなってしまうんですね。皆さんがおっしゃるとおり、少し違う内容を入れてもらわないといけないという気はします。

■委員長

- ・事業そのものの発表をされると思うのですが、こちらからの質問としては運営された団体にとってどのような意味があったかということをお必ず質問したいと思います。事業をしていただくことだけが目的ではなく、団体にとってどのような意味があったかということが奨励金の目的にマッチングしますので。

□まちづくり支援コース③

安藤昌益資料館を育てる会 / 安藤昌益関連書籍の複製事業

■事務局

- ・評価される点としては、偉人の功績を後世に伝える事業であるという取組内容に関する意見や、活動の計画的な進行管理に関する意見が多くあげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、資料の充実や市民を巻き込んだ活動の展開といった今後の活動に対する期待やアドバイス、資料館のPRに関する今後の課題が意見としてあげられた。

■委員長

- ・これがきっかけになってなのか、今年度の提案事業は歴史に関する事業が多くなりました。私が商工会議所の青年部の委員会の中で、中心街をまち歩きしようと取り組んだときには、過去の資料が残っているかというのが非常に大事でして、八戸市に関してはこのように調べてくれている人がいて非常に良かったんですね。図書館に行くと結構資料が残っていますし、新聞の切り抜きも非常に充実しているので、調べやすいという風に行きした他市のまちづくりをしている方もおっしゃっていました。
- ・今回のこの事業のように、地道に資料を集めてまとめていただいている人がいると、このような場合に非常に取っ掛かりやすいと思います。それも市民自らが取り組んでいるというのは珍しいケースだと思っていましたので、そういう意味では新しい市民奨励金の活用の仕方だなと感じていました。
- ・次はこの事業をどのように活かすかということになりますね。資料をつくって何をするかということ。個人の趣味で終わるのではなく、要は観光とか、産業とかにつなげていくための次のステップが必要になりますので、その辺をどのように考えられているのかをお聞きしたいと思っていました。
- ・質問事項の「昌益を環境問題からの視点で説明すると、なぜ広く市民にわかりやすいのか知りたい。」とありますが、事業報告のどこに記載がありましたか。

■事務局

- ・企画提案書のほうに記載がありました。

■委員長

- ・今回は事業報告の発表となるので、環境問題からの説明でということであれば、「今回、具体的にどのような活動をされて、また今後はどのような活動をされていかれる予定ですか。」という質問にした方がいいかもしれませんね。

■委員

- ・なぜ、昌益を取り上げるかというときに、環境問題からの視点で説明した方が、私を含めて市民にはわかりやすいのではないかという意味で書いていました。提案書の方でも、そのような捉え方をしていましたので。

■委員

- ・この部分を抜き出して質問した際に、答えられるかという疑問ではありますね。ただ、審査を経ている関係上、計画書に関する質問ではなく、報告書からの質問をしていかないといけないので、「計画書にあった環境問題に関する一文ですが、今回実施した事業を活かして、今後はどのように活動していくことを考えていますか。」という方向に変えた方がいいかもしれませんね。または、「企画提案書では、会の解釈として環境問題と一緒に昌益をPRするというのを考えておられるようでしたが、今回の事業を実施して解釈はどのようになっていますか。」というような質問であれば、今回の事業を経た上での考え方を確認することになるので、問題ない質問になるかなと思います。〇〇委員いかがでしょうか。

■委員

- ・そのような質問でいいと思います。

■委員

- ・安藤昌益資料館に行ったことがないのですが、専門家向けの資料館になるのですか。それとも、一般市民向けの資料館になるのですか。来館者の7割が県外ということで、PRが足りないのか、関心がないのかわかりませんが、あまり市民の方が訪れていないのだなと思ひまして。

■委員長

- ・いわゆる観光地とは少し違いますから、安藤昌益に興味がない人は恐らく行かないでしょうね。ただ、県外から来る人は見たいと思ってきているので、県外からの来館者が多いという傾向になっているのだと思います。

■委員

- ・来館者は専門家になるのですか。

■委員長

- ・専門家というよりは、歴史が好きな人になるでしょう。

■委員

- ・歴史が好きな人にアピールしたいという資料館であれば、意見・アドバイスに記載されているような、子どもたちに対する普及というのは、あまり念頭にないのですかね。市民の皆さんにももう少しアピールできると思ひかと思うのですが。

■委員

- ・私も老若男女ではないですが、もう少しPRする対象を広げた方がいいかなとは思ひます。

■委員

- ・組織の会員を増やす、組織を活性化していくためには、PRする対象を広げていく必要はありますよね。そこから、新たな研究者が生まれるかもしれませんし。

■委員長

- ・歴史が好きな人が行くとなると、ある程度専門的な資料じゃないと期待に応えられないので、そういったことから今回の事業内容になっていると思います。目的とすれば、歴史が好きな人を対象とした整備になるかもしれませんね。

□まちづくり支援コース④

是川地区振興会 / 是川の歴史再発見！

■事務局

- ・評価される点としては、是川の文化遺産を知ってもらいたいという事業への取組姿勢に関する意見や、地域の子どもたちが地域の歴史・文化に触れる機会ができたという地域社会への貢献性に関する意見があげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、観光ガイドマップを活用した今後の活動に対する期待及び過大があげられた。
- ・質問事項としては、ガイドマップを用いた公民館講座の開催状況や地域の関係団体との連携状況など、報告書に記載されている事項以外についても詳しく聞きたいという意見があげられた。

■委員

- ・ガイドマップとパンフレットをつくるまでの過程やつくってからどうしたかということが知りたいです。

■委員長

- ・こちらが求めている奨励金を活用して事業を実施した効果に関する記述がほとんどないので、企画提案書を踏まえた内容で得られた効果等について発表していただければと思います。
- ・今回の事業で作成されたパンフレット等については、とてもよくできていると思います。ただ、企画提案の段階ではパンフレット等の作成以外にももう少し事業があったと思いますし、つくること自体が事業の目的ではないということもありますので、パンフレット等をつくったうえでどのようなステップに進んでいくかというところは、是非発表していただきたいと思います。是川地区振興会については、資料に記載の質問事項についてお話いただければと思います。

□初動期支援コース及びまちづくり支援コースの総評の検討

■委員長

- ・これまで、個別の事業について意見交換をしてきたのですが、コース別に総評をすることになりますので、皆さんからご意見・ご感想をいただければと思います。まずは、初動期支援コースに関してお願いします。

■委員

- ・初動期支援コースの方が、協働のまちづくりの理念にかなっているような印象を受けます。協働のまちづくりに対する意欲を感じると思いますか。
- ・まちづくり支援コースの方は、駅伝大会を開催したとか、観光ガイドマップをつくったというように事業で完結しているような印象を受けます。

■委員長

- ・私も何年かこの委員会に携わってきて、総評案はほぼ同じような形になってしまうのですが、初動期支援コースに関しては、今回もまちづくりに関する話ではなく、地域の課題やこのような活動を八戸市の中で行うべきではないかという目的があった上で活動を起こされるので、それぞれの団体が奨励金を有効に活かしていただいているような感触を持っているというプラスの意見が多く出ましたという感じではいかがでしょうか。
- ・まちづくり支援コースに関しては、報告の仕方になってしまうかもしれませんが、事業ありきの表現が多いように感じますので、事業を実施したことがどのように団体にプラスになったのか、もしくはどのような効果が地域にあったのかという部分を報告書の中に書いていただきたいということがあります。これは全体を通して感じることでですね。
- ・その中で、一つだけ別なものがあるのですが、安藤昌益関連書籍の複製事業については、今回新たな試みとして出てきた事業になりますが、このような事業でも奨励金の対象となるということでは、新しい奨励金の活用法が見つかったということになりますので、今後はこのような方向でも是非活かしていただきたいということではいかがでしょうか。
- ・一つは報告の中身について、今後どのように活かしていくかという部分をもう少し入れて欲しいというところと、新しい奨励金の活用法が出たということが非常に良かったということで、全体を通してはそのようなところではないでしょうか。

■事務局

- ・それでは、委員会の開催に際して事前にいただいていた意見や本日の委員会で事業ごとに出た意見、最後に委員長にまとめていただいた内容をまとめて、総評案をつくりまして、皆さんに確認していただきたいと思います。

★初動期支援コース総評（案）★

- ・初動期支援コースの3団体は、地域づくり、子どもの健全育成、障がい児支援に関する取組で、地域課題等の解決に向けた活動であった。
- ・いずれの取組も、協働のまちづくりの理念にかなったものであるとともに、今の時代のニーズを反映したもので、今後さらなる活動の活発化が期待される内容のものである。
- ・それぞれの団体においては、今後も活動を継続していくために、一部のメンバーだけで頑張るのではなく、多くの協力者を集めたり、他団体との連携を深めたりするなど、ネットワークの構築・拡大に取り組んでおり、非常に評価できるものである。
- ・活動を継続していくことで、団体や活動に対する世間の認知度が高まり、支援者及び協力者が増え、活動がより充実したものになると考えている。
- ・それぞれの団体においては、今回の経験を土台にし、今後どうしていきたいのか方向性を定め、是非、活動を継続していただきたいと思う。
- ・最後に、美保野小学校地域学校連携協議会の事業は、地域が有する資源の活かし方、地域住民への発信の仕方というところで、他の地域にも参考になるものである。今後予定されている、里山の拠点となる「ふるさと学習館」の整備についても期待している。

★まちづくり支援コース総評（案）★

- ・まちづくり支援コースの4団体は、地域づくり、観光振興、文化・歴史に関する取組を通じて、市民活動や地域活動の活性化に資する事業であったが、それぞれが異

なる視点からアプローチした活動をみることができた。

- ・いずれの事業も、当初の事業計画に沿った運営がなされており、成功裏に終わることができたのではないかと感じている。また、事業を通じて、それぞれの団体が得られた経験や地域等に及ぼした効果は、大変貴重なものだったと感じている。
- ・ひとつ残念だったのは、提出いただいた実績報告書において、各団体とも「イベントを実施した」、「資料を作成した」というような事業の報告に終始してしまった点である。
- ・事業を実施する中で得られた経験について、みなさんが従来の活動や今後次のステップに進む上で、どのように活かしていくのか、地域等に及ぼした効果はどんなものだったのかということ、本日の活動成果発表の中だけではなく、実績報告書にも記載いただけたらなお良かったと感じている。
- ・今後は、事業を実施したことで得られた経験を活かして、活動内容をより充実したものにしていただくとともに、新たな事業を展開するなど、現状にとどまることなく、活動を継続していただくことを期待している。
- ・最後に、安藤昌益資料館を育てる会の事業は、これまでの市民奨励金を活用した事業とは違う新たな試みの事業であったが、委員会としても新しい活用法が見つかって非常に良かったと考えている。今後は、文化・歴史に関する事業においても、市内で活躍される団体の皆さんにご活用いただければと思う。

□市民提案制度 市設定テーマ

総合教育センター、科学であそび隊 / 科学教室拠点づくり

■事務局

- ・評価される点としては、初心者でも興味をもって取り組めた内容であったという事業内容全体に関する意見のほか、参加者は少なかったものの事業内容は目的の効果を出しており、課題解決に向けたアプローチの方法は良かったという意見が多くあげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、事業の名称やPR方法に関して、今後活動を継続するうえでの意見やアドバイスが多くあげられた。
- ・質問事項としては、当該事業により養成された講師が、実際に科学教室を開催するようになるまで、今後どのようなステップを経ていくのかを知りたいという意見があった。

■委員

- ・参加者が少ないですね。

■委員長

- ・参加者が5名ということで、ちょっと少ないなという印象はありますね。
- ・この事業に関しては、継続していかれるのですかね。

■事務局

- ・今年度は継続するという事になっています。

■委員長

- ・そうすると、参加者数を増やす手段の話になってしまいますね。

■事務局

- ・広報の部分というのは、お互いに事業評価シートの中であげている部分ではありました。表現に関することやポスターによる広報がなかったということが反省点としてあがっているのも、そのような点を見直しながらかみ組んでいくのではないかと思います。

■委員長

- ・資料の『PR方法に関するアドバイス・意見』の中に皆さんからの意見・アドバイスが記載されています。まだ決まっていなな中で聞かなければいけないかもしれませんが、このような検証を受けて、次に何をするかというところですね。
- ・『科学教室拠点づくり』が想定する参加者というのは、私の印象の中では、初動期支援コースの事業であるはちのへおもちゃ病院の『おもちゃドクター養成講座』とすごく似ているとあります。おそらく、『おもちゃドクター養成講座』に参加されている方々は、地域に何か役立つことはないかなと探されて動いている人たちが参加されているのかなという気がして、『科学教室拠点づくり』で考える参加者と同じような方向性の方々ではないかなと考えています。そのような意味で、『おもちゃドクター養成講座』と『科学教室拠点づくり』は同じような事業をしているのだけだ、『科学教室拠点づくり』はマッチング具合が少ないのか、PR方法の問題なのか、参加者が少ないなと思っていました。
- ・参加者を増やすための方法ということでは、はちのへおもちゃ病院からそういったところの情報を享受いただいて、今後にか活かしていくと、アピール先も参加者も増えていくと思います。

■委員

- ・科学教室指導者養成講座は、夜間に開催していましたか。
- ・ボランティアの人たちは、平日の夜がいいという人もいるかもしれませんが、休日の方がいいという人もいるかもしれません。広報だけではなく、時間の設定もあるのかなと思っていました。

■委員

- ・科学教室指導者養成講座の受講は、3回セットじゃないといけないんですよね。3回受講しなければいけないとなると、ハードルが高いですよね。しかも隔週で開催されていますよね。

■委員

- ・参加人数が5人と書いていますが、三八五ふれあいネットは児童科学館の指定管理者なので、実質は2名の参加ということになります。そう考えると参加者が本当に少なかったということになります。

■委員

- ・児童科学館の人が、科学教室のアシスタントをできるようになっていくのかなという感じがしますね。

■委員

- ・『科学教室拠点づくり』という事業名なのですが、具体性に欠けているなと思います。科学教室を市内に分散する形で、広範囲につくろうと想定しているのであれば、どこに拠点をつくろうということが、ある程度イメージできる名称になると思うのですよ。そのイメージがなさそうな気がします。
- ・「総合教育センターと科学であそび隊との間に温度差があると思う」という意見を出している方がいらっしゃいますが、私も両者がかみ合っていないなと思っていました。なぜだろうなと何回も読み直してみても、一つ推測したのが児童科学館が指定管理者に移行しているから、総合教育センターが主体的になっていないのかなと思っていました。うがった見

方かもしれませんが、いまいちはっきりしないなという印象がありますね。

■委員

- ・『おもちゃドクター養成講座』の方は、関心がある人は誰でも受け入れますよという開かれたイメージ。『科学教室指導者養成講座』の方は、参加者募集の表現などから、参加者を限定してしまっているようなイメージを持ちました。

■委員

- ・『科学教室指導者養成講座』を受講したあとにどうするのかということが、なかなか見えにくい。公民館等で科学教室を開催することを考えているようですが、科学教室を開催することができる講師を増やしたいのであれば、講座の開催は夜間ではないほうがいいような気がします。

■委員

- ・計画の段階では、科学であるそび隊が拠点を分散していった際には、各拠点をまとめる核が必要だということを言っていました。そのとおりだと思います。

■事務局

- ・事業の提案があった当初は、総合教育センターは各地域に講師を派遣して科学教室を開催し、科学教室の拠点をつくりたいということでした。
- ・しかし、科学であるそび隊としては、まずは講師をできる人を養成しましょうということでした。児童科学館が拠点となって養成講座を開催し、今回の事業では参加者が少なかったですが、養成講座を受講した人たちが、地域で科学教室を開催できるようにする。そのために、安全面をはじめとしたノウハウを養成講座で引き継いでいくということなので、目的としては、今回の講座を受講された人たちが各地域で、子どもたちや親御さんなどに科学を広めていくということになるのだと思います。

■委員

- ・事業の実施に際して、実際の広報はどのようにやったのですか。公民館などに声をかけたりしたんですか。

■事務局

- ・広報はちのへに募集記事を掲載しています。小・中学校にも案内を送付したという報告がありました。

■委員

- ・開催した時期も、寒い時期だったのが良くなかったかもしれませんね。

■事務局

- ・協議していく中で話がまとまって、年度内に実施できそうだとということで昨年度中の開催ということになったので、遅い時期なってしまったというのは仕方がないところもあるのかなと思います。

■委員

- ・講師として養成した人とは、その後コミュニケーションをとるんですかね。実際に科学教室を開催したとか、開催してこういう問題があったとか。すぐにというのは難しいのかもしれませんが、フィードバックがないとせっかく講座を実施しても、そこで完結してしまう感じがします。

■委員長

- ・先生だったら、この養成講座の内容は受講しなくても科学教室を開催できるという感じになるのですか。

■委員

- ・市内には、科学に関するノウハウを持った人材というのはたくさんいます。『青少年のた

めの科学の祭典』などは10年以上開催してきていますので、科学の祭典に関わっている多くの皆さんはノウハウを持っています。

■委員

- ・そのような方たちには養成講座は不要なわけですね。そうであれば、養成講座の対象はどういう人になるのか。

■委員

- ・ボランティアとして各地域で科学を子どもたちに教えることができるという人材を育成して、一つのバンクになることができればいいのかなと思います。科学を教えることができるノウハウは持っているけれど、各地域に出向きたくはないという人もいるかもしれませんし。

■委員

- ・先生の退職者の中にもノウハウを持っている方はたくさんいますよ。そのような方たちにはお知らせしなかったのかなと思います。そうでなければ、参加者が5人なんて信じられません。

■委員

- ・そのような方たちのネットワークを活用できれば、良かったのかもしれないね。

■委員

- ・退職された先生方はノウハウをお持ちだからこそ、今回の養成講座には参加しないのではないのでしょうか。

■事務局

- ・総合教育センターと科学であそび隊との協議の際に出た話になりますが、〇〇委員がおっしゃられたように、養成講座は退職された方も含めて先生方を対象としたものではないということでした。実際に教えていた方というのは、ご自分たちの教え方というものが確立されています。ですから、一般の方が科学教室を開催することができるような養成講座を実施して、受講された方たちによるネットワークも構成しながら、実際に科学教室を開催するというような今後の活動につながっていけばいいのかなということをお話されていました。

■委員

- ・総合教育センターとしては、養成講座を受講して、科学教室を開催するノウハウを身につけたのだから、あとは皆さん自由に科学教室を開催してくださいというようなスタンスなんですかね。
- ・今回の養成講座の参加者である工作工房や長者小のPTAの方、三八五ふれあいネットの方たちが、組織として参加・派遣されてきているということであれば、総合教育センターでコーディネートしなくても、講座の受講後に科学教室を開催してくれる可能性はあると思います。しかし、各団体に所属はしていますが、今回は個人的に申し込みましたというような場合は、総合教育センターのコーディネートがなければ、科学教室の開催には至らず、ただ勉強しただけで終わってしまうのではないかなと思います。
- ・事業名に拠点づくりとはありますが、何か所くらい拠点をつくりたいと考えているのか、どの地域につくっていきたいと考えているのか、イメージするものはあると思うのですが、なぜそういったことが出てこないのだろうと思います。

■委員

- ・委員がおっしゃられたように、科学教室を開催できる先生たちはたくさんいるはずなんです。しかし、一緒に科学教室を開催するという気持ちになるかということ、別な話だと思しますので、そこが難しいところだと思います。

■委員

- ・あと、地域に貢献することができるのかなというところだと思います。三八五さんでもいろいろ出前講座を行われていて、先日、保育園にも出張しますという案内が来ていました。
- ・今回の協働事業である科学教室が小中学生を対象に公民館で開催されれば、子どもたちはそれぞれの地域で集まることができるので、まちづくりとしてはいい取組になるのではないかなと思います。児童科学館に行くことができない子どもたちはたくさんいますので、地域に出向ける人をたくさん募って、その人たちにはたくさん地域に出向いてもらって、多くの子どもたちに科学というものを教えてもらう。公民館単位で活動してもらえると一番いいのかなと思いますね。

■委員

- ・夏休みや冬休みに、私は自由研究勉強会というものを2年おきに開催しています。

■委員

- ・子どもチャレンジ教室というものを市川公民館でも開催しているので、その中で科学教室のプログラムがあれば、面白いのかなと思います。

■委員長

- ・意見・アドバイスの質問事項にあります「実際の講師派遣の活動につながるまで、今後どのようなステップを経ていくのか、イメージをお聞かせ願いたい。」というのが、今の意見交換の内容が集約される質問になるでしょうね。
- ・今回、市民提案制度についても総評案という話になるのですが、事業が一つだけなので委員の皆さんから意見を言って、最後に私の方から意見を言ってという形式でやらせていただければと思います。

★市民提案制度による協働事業の総評（案）★

- ・市民活動団体と行政とが、共に情報共有を図りながら、互いの役割分担のもとに連携して事業を進めており、両者での協働がより形で進められた事業である。
- ・「科学教室」を各拠点で開催できる講師を養成するための講座では、参加者相互での意見交換が行われ、参加者の課題解決につながるとともに、指導力の向上につながったものと考えられる。
- ・また、参加者からは「楽しく参加することができた」、「テーマ選びや工具の使い方、安全面への配慮などが勉強になった」という意見が寄せられており、一定の評価をすることができる。
- ・一方で、講座への参加者が5名と少なかったことは残念であった。両者から広報については課題として挙げられており、解決方法についても認識が共有されていることから、今後事業を継続するうえでは、より効果的な広報の仕方を検討し、改善していただければと思う。
- ・なお、事業終了後の評価について、両者の間で若干の温度差を感じる部分があるので、それらの項目を検証し、活動内容をより充実したものにしていきたい。
- ・今後は、講師の養成を行うとともに、養成した講師が「科学教室」を地域で開催するという次のステップに進んでいくものと考えている。養成した講師が継続して活躍するためには、講師の間で情報を共有することができる体制の構築も重要であることから、児童科学館を核としたネットワークの構築にも取り組んでいただきたい。

- ・理科離れの深刻化は全国的に叫ばれる問題であるが、この事業により市内各所で科学教室が開催されるようになり、他都市に紹介できる好事例となること。そして、八戸市教育振興基本計画が目指す教育の姿である「人と人との絆を結び、あらゆる世代がいきいきとかがやく教育」が実現することを期待している。

次第4. その他

(1) 平成26年度市民奨励金提案事業の再審査について

- ・平成26年4月19日に開催された「元気な八戸づくり」市民奨励金 公開ヒアリング審査会における審査の結果、奨励金の交付額が希望する奨励金額に満たなかった事業について、再提出された企画提案書等に基づき再審査を実施し、全委員より承認が得られた。

企画提案者：八戸地域神事流鏝馬再興会

事業の名称：八戸藩開藩350周年記念・加賀美流神事流鏝馬再現事業

(2) 今後のスケジュールについて

■事務局

～今後のスケジュールの確認と委員会開催予定日の日程調整～

5. 閉 会